

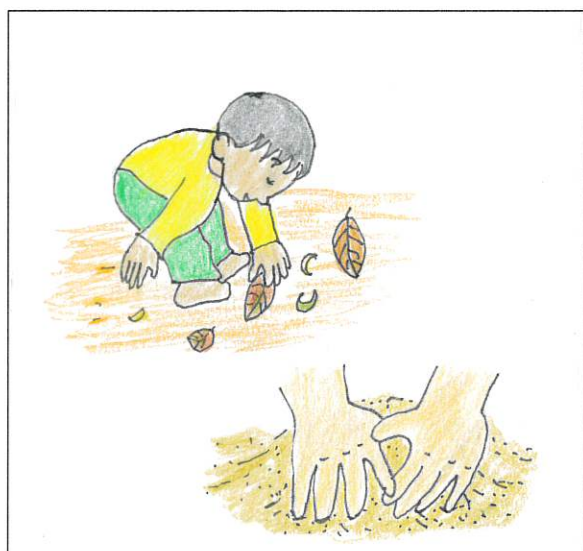
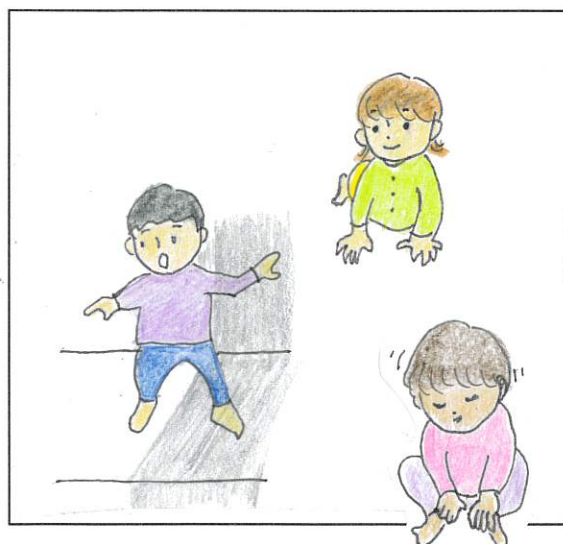
自分で這う、歩く喜び

つき組

暖かい日は、廊下に出て日向ぼっこをしながら、這い這いや歩いての「お散歩」をしています。

日向と日陰の床面の色の違いに気づいて指さし、境界線を行ったり来たりしているうちに温度の違いも感じているようです。

そのうち日向でウトウト、気持ち良さそうにこっくり、こっくりする姿も、、、



身をかがめて手を伸ばし、砂や落ち葉をつかんだり、砂を落ち葉と地面に落とした時の「音」の違いに気づいて「あ、あ、」と声をあげたりしています。

握る手の中の砂の（冷たい、ザラザラ、湿っている）落ち葉の（軽い、カサカサ、乾いている）をそれぞれに感じている様子もあります。

子どもは歩いたり、這ったりしながら自分の目で見て惹きつけられるものに進んでいきます。そこで出会った物を知っていく喜びに出会います。

自分の意志で進んで行く喜びの経験は、その子どもが人生を力強く進んで行く心の土台となるものだと思います。

